

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-286243

(43)Date of publication of application : 27.10.1998

(51)Int.Cl.

A61B 5/022

(21)Application number : 09-099024

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD

(22)Date of filing : 16.04.1997

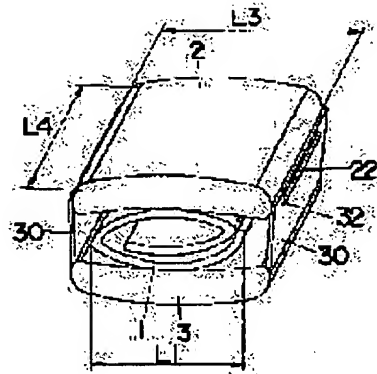
(72)Inventor :
YUASA TAKESHI
HAMAMOTO MANABU
OKADA KOICHI

(54) CUFF BAND FOR HEMODYNAMOMETER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a cuff band for a hemodynamometer, which has satisfactory packing ability.

SOLUTION: A cuff band 1 adapted to be wound on a part from which a blood pressure is measured is provided with a pair of covers 2, 3 at least one of which is attached to the outer surface of the cuff band 1, and a coupling means 30 for coupling both covers 2, 3 with end other so that the space between the covers 2, 3 is variable. The covers 2, 3 coupled together by the coupling means have therebetween an accommodation space for the cuff band 1, that is, the cuff band 1 can be packed in the accommodation space between the pair of the covers 2, 3.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

13.05.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3500904

[Date of registration]

12.12.2003

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-286243

(43) 公開日 平成10年(1998)10月27日

(51) Int.Cl.⁶

A 6 1 B 5/022

識別記号

F I

A 6 1 B 5/02

3 3 5 A

3 3 5 F

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平9-99024

(22) 出願日 平成9年(1997)4月16日

(71) 出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72) 発明者 湯浅 毅

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

(72) 発明者 浜元 学

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

(72) 発明者 岡田 浩一

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

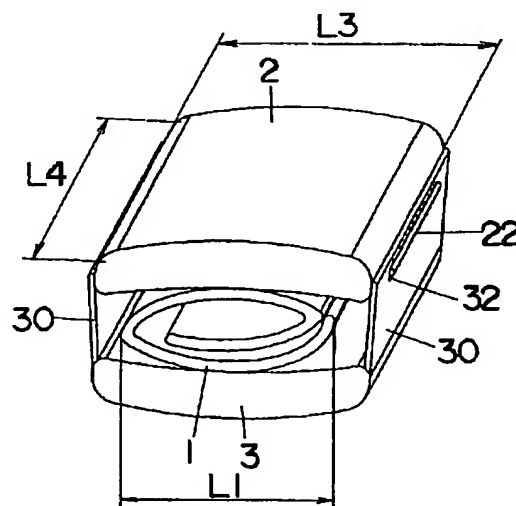
(74) 代理人 弁理士 西川 恵清 (外1名)

(54) 【発明の名称】 血圧計のカフ帯

(57) 【要約】

【課題】 良好な収納性を有しているものとする。

【解決手段】 血圧の被測定部に巻き付け装着されるカフ帯1であり、少なくとも一方がカフ帯1の外面に取り付けられた一対のカバー2、3と、両カバー2、3を相互に連結するとともにカバー2、3間の間隔を可変としている連結手段30、5とを備える。連結手段で連結された両カバー2、3はその間にカフ帯収納スペースを備える。一対のカバー2、3間のカフ帯収納スペースにカフ帯1を収納してしまふことができる。



1 カフ帯

2 カバー

3 カバー

【特許請求の範囲】

【請求項1】 血圧の被測定部に巻き付け装着されるカフ帯であって、少なくとも一方がカフ帯の外面上に取り付けられた一対のカバーと、両カバーを相互に連結するとともにカバー間の間隔を可変としている連結手段とを備え、連結手段で連結された両カバーはその間にカフ帯収納スペースを備えていることを特徴とする血圧計のカフ帯。

【請求項2】 一対のカバーは共にカフ帯に取り付けられており、連結手段はカバーの両側端同士の間隔及び連結解除が自在なものであることを特徴とする請求項1記載の血圧計のカフ帯。

【請求項3】 一対のカバーは共にカフ帯に取り付けられており、カフ帯の両端が位置する側において一対のカバー間を連結している連結手段はカバー間を常時連結しているものであることを特徴とする請求項1または2記載の血圧計のカフ帯。

【請求項4】 連結手段は一対のカバー間の間隔変更部がカフ帯の被測定部への締め付け手段を兼ねたものであることを特徴とする請求項1または3記載の血圧計のカフ帯。

【請求項5】 カフ帯はその全長が被測定部の周長よりも長くなっていることを特徴とする請求項4記載の血圧計のカフ帯。

【請求項6】 一対のカバーのうちの少なくとも一方の内面が凹湾曲面となっていることを特徴とする請求項1～5のいずれかに記載の血圧計のカフ帯。

【請求項7】 カバーのカフ帯への取り付けがカフ帯の長手方向において所定の長さ以上の領域でなされていることを特徴とする請求項1～6のいずれかに記載の血圧計のカフ帯。

【請求項8】 連結手段の状態変更のための操作部を備えていることを特徴とする請求項1～7のいずれかに記載の血圧計のカフ帯。

【請求項9】 カバーの全長及び全幅が収納スペースに収まったカフ帯よりも大であることを特徴とする請求項1～8のいずれかに記載の血圧計のカフ帯。

【請求項10】 カバーが血圧計本体を兼ねたものであることを特徴とする請求項1～9のいずれかに記載の血圧計のカフ帯。

【請求項11】 カバーがカフ帯の長さ調節機能を備えたものであることを特徴とする請求項1～10のいずれかに記載の血圧計のカフ帯。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は血圧測定のための血圧計、殊に血圧の被測定部に巻き付け装着されるカフ帯に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 血圧測定のための一般的な血圧計は、上

腕や手首といった被測定部にカフ帯を巻き付け、カフ帯内に配した阻血用空気袋に空気を送って膨張させることで被測定部に圧力を加え、その後、空気袋内の空気を徐々に抜きながら血圧の測定を行うようになっているが、このカフ帯、殊に個人が自分で血圧測定を行うタイプのものについて従来よりなされていたことは、被測定部への装着をしやすいということであった。

【0003】 図24はカフ帯1の一端側にリング部材19を取り付けておき、カフ帯1の他端側をリング部材19に通して折り返して該折り返し部分を面状ファスナー18等を利用して固定するものを示しており、図25はカフ帯1内に阻血用空気袋10に加えて断面C字形の弾性を備えたクリップ板18を内蔵させておき、該クリップ板18の弾性を利用して被測定部にカフ帯1をはめ付けた後、カフ帯1に取り付けてある面状ファスナーなどを利用して固定するものを示している。

【0004】 前者は予めリング部材19にカフ帯1の他端を通してカフ帯1が閉ループを成すようにしておき、この状態で被測定部をカフ帯1内に通した後、締め付けて面状ファスナー18による固定を行うことで、被測定部への装着を片手でも行うことができる。また、後者はクリップ板18の弾性を利用することで、やはり片手での被測定部への装着を行うことができる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 上述のように、従来のカフ帯は被測定部への装着性を考慮しているものの、その収納性についての考慮は全くなされていなかった。すなわち、上記従来例のうち、図25に示したものは、内蔵するクリップ板が折り畳んでコンパクトにするということができなくしており、また図24に示したものは、カフ帯1の柔らかさを利用して折り畳んで小さくすることができるものの、うまく折り畳まないと嵩ばってしまうことになる。また、上記両者はいずれも収納にあたってそのまま放置するか別途ケースに入れることになり、放置した場合にはゴミを被ったりして汚れてしまう上に傷つけてしまったりすることになる。

【0006】 本発明はこのような点に鑑み為されたものであり、その目的とするところは良好な収納性を有している血圧計のカフ帯を提供するにあり、また他の目的とするところは被測定部への装着性なども良好である血圧計のカフ帯を提供するにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】 しかして本発明は、血圧の被測定部に巻き付け装着されるカフ帯であって、少なくとも一方がカフ帯の外面上に取り付けられた一対のカバーと、両カバーを相互に連結するとともにカバー間の間隔を可変としている連結手段とを備え、連結手段で連結された両カバーはその間にカフ帯収納スペースを備えていることに特徴を有している。一対のカバー間のカフ帯収納スペースにカフ帯を収納してしまいうことが出来るも

のである。

【0008】この時、一対のカバーが共にカフ帯に取り付けられ、連結手段がカバーの両側端同士の連結及び連結解除を自在としているものであってもよいが、このほか、カフ帯の両端が位置する側において一対のカバー間を連結している連結手段を、カバー間を常時連結しているものとしてもよい。後者においては、カフ帯と連結手段とによって閉ループが構成されるために、被測定部をループ内に通すことで装着を行うことができる。

【0009】また、連結手段として、一対のカバー間の間隔変更部がカフ帯の被測定部への締め付け手段を兼ねたものを用いる時、血圧測定のための状態へのセットを簡単に行うことができる。そしてカフ帯の全長が被測定部の周長よりも長くなるようにしておくことで、確実な血圧測定を行うことができる。一対のカバーのうちの少なくとも一方の内面が凹湾曲面となっていることが、フィット感の点で好ましく、またカバーのカフ帯への取り付けがカフ帯の長手方向において所定の長さ以上の領域でなされていると、被測定部への装着が容易となる。

【0010】上記連結手段の状態変更のための操作部を備えたものとしておけば、操作性を向上させることができ、カバーの全長及び全幅が収納スペースに収まったカフ帯よりも大であれば、収納状態のカフ帯がカバーより突出してしまうことがないために、カフ帯の汚れや傷付きを確実に防ぐことができるものとなる。さらにはカバーが血圧計本体を兼ねたものであっても、カフ帯の長さ調節機能を備えたものであってもよい。

【0011】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態の一例について説明すると、図1及び図2において、カフ帯1の長手方向において間隔を置いた2カ所の外面に夫々カバー2, 3を取り付けてあり、また、カバー3の両側端には夫々連結プレート30, 30を回動自在に取り付け、カバー2の両側端には上記カバー3の両連結プレート30, 30の各先端に設けられた係合部32に係合する被係合部22を設けてある。

【0012】そして、カバー3に設けられた両連結プレート30, 30の各先端の係合部32をカバー2の被係合部22に連結すれば、一対のカバー2, 3と一対の連結プレート30, 30とによって四周が囲まれた空間が生じるとともに、該空間内にカフ帯1が収納されてしまうことになる。カフ帯1を折り畳むということを意識しなくとも、連結プレート30によるカバー2, 3の連結により、カフ帯1は所定の収納部に収まってしまふものである。

【0013】このカフ帯1を被測定部に装着する場合、図2(b)(c)に示すように、両連結プレート30, 30とカバー2の被係合部22との係合を解除して被測定部にカフ帯1を巻き付ける。この巻き付けは、カフ帯1の一端外面と他端内面とに面状ファスナーを設けておくこと

で行うことができる。もちろん、図7に示すように、従来例で示したものと同様のリング部材19を併用したものであってもよい。

【0014】なお、図1及び図2から明らかなように、カバー2とカバー3とが共にカフ帯1の外面に取り付けられているものにおいては、図中左方の連結プレート30は無くともよい。カフ帯1によって既に相互に連結されていることになるからである。逆に、左右両側の連結プレート30, 30によってカバー2とカバー3の左右両側を相互に連結する場合、カバー3はカフ帯1に取り付けられたものでなくともよい。

【0015】また、各カバー2, 3は、図1及び図3に示すように、収納状態にあるカフ帯1の左右寸法L1及び前後寸法L2よりも大きい左右寸法L3及び前後寸法L4 ($L1 < L3$, $L2 < L4$) としておくことで、収納時にカフ帯1がカバー2, 3よりも突出してしまうことがなくなるために、収納中にカフ帯1が傷ついてしまうということがなくなる。カバー2, 3が収納性を良くするための存在となるだけでなく、保護カバーとしての機能も果たすことになるわけである。

【0016】カバー2, 3の少なくとも一方の内面は、図4に示すように、被測定部9の外周面の曲率にほぼ一致する曲率（たとえば半径R35mmの曲面）としておくのが好ましい。カバー2, 3がカフ帯1に取り付けられているにもかかわらず、被測定部9に良くフィットするために、カバー2, 3の存在による違和感をなくすることができる。

【0017】さらに、図5に示すように、カバー2, 3を共に外側に凸となった円弧状としておくと、カバー2, 3の左右両側を夫々突き合わせた状態で内側にカフ帯1の収納空間を形成することができ、収納時の形態をより良好に保つことができる。なお、円弧状といっても、内側の面が円弧となっておればよく、外側の面は他の形状でもかまわない。

【0018】連結プレート30を用いる場合において、連結プレート30の係合部32と被係合部22との係合はワンタッチで行える形態のものが好ましいが、図6に示すように、連結プレート30の先端に指掛用の操作片33を付設しておけば、係合部32と被係合部22との係合及び解除の操作を容易とすることができる。一方のカバー（図8に示す例ではカバー3側）にカフ帯1の長さ調節機構4を設けておくのも好ましい。なお、この長さ調節機構4は、カバー3内にカフ帯1の一端を引き込むことで長さ調節を行うものであるが、その構造については後で詳しく説明する。また、一方のカバー（図9に示す例ではカバー2）が血圧計本体を兼ねたものであってもよい。図9中の25は血圧計表示部、26は操作スイッチである。

【0019】図10に示すものは、カバー2, 3が共にカフ帯1の外面に取り付けられたものにおいて、連結プ

レート30、30に加えて、カバー2、3におけるカフ帯1の両端部が位置する側を相互に常時連結している連結部材5を設けている。柔軟性を有するもの、例えば布で構成された連結部材5は、カバー2、3同士を連結しているカフ帯1と併せて閉ループを構成するために、カフ帯1を被測定部に装着する時、閉ループ内に被測定部を通せばよく、片手での装着を容易とする。

【0020】上記連結部材5は、図11に示すように、複数枚の片50、51、52をヒンジ53で連結したものと構成してもよい。この場合、図11(a)に示す状態で被測定部を通し、その後、ヒンジ53部分で片50、51が重なるように折り畳むだけで、カフ帯1を被測定部外面に密着させることができるものとなり、これに伴って、カフ帯1に面状ファスナー等のカフ帯1を閉じるための部材が不要となる。なお、重ねて折り畳む片50、51は剛性を備えたものが好ましいが、他の片52は柔軟な材質のものであってもよい。また、該片52が連結プレート30を兼ねていてもよい。

【0021】このような連結部材5を設ける時には、片50、51が重なった状態を保つことができる係合部55を設けることになるが、この係合部55による係合の解除を容易とするには、図12に示すように、カバー3に指を掛けることができる突片34を設けるとよい。なお、連結部材5を畳むことによってカフ帯1を被測定部外面に密着させることができるようにする場合、カフ帯1が被測定部9の周長よりも短くとも血圧測定が可能であるが、図13に示すように、連結部材5を折り畳んだ時にカフ帯1の両端が重なって被測定部9の全周にカフ帯1を巻き付けることができるようにカフ帯1の長さを設定しておくことが望ましい。

【0022】また、カフ帯1の外面へのカバー2の取り付けは、図14(a)に示すように、カフ帯1の長手方向において所要の長さの領域Aで行っておく。この領域Aが短いと、図14(b)に示すように、カバー2を保持した状態でカフ帯1及びカバー3を垂らした時、カフ帯1で囲まれる空間が小さくなって、被測定部9を通すのが困難となるからである。

【0023】図15以下にカバー2が血圧計本体を兼ねているとともにカバー3にカフ帯1の長さ調節のための長さ調節機構4を組み込み、さらにカバー2とカバー3とを一側端がわにおいて複数の片50、51、52からなる連結部材5で連結し、他側端がわを連結プレート30で連結するようにしたものの詳細な実施の態様を示す。なお、この血圧計が対象としている被測定部9は手首である。

【0024】血圧計本体を兼ねたカバー2はその内部に電源としての電池27やポンプ28等を内蔵しており、カフ帯1における阻血用の空気袋10を内蔵した部分の外面に装着されて空気袋10に設けられたノズル12を通じてポンプ28と空気袋10とが接続されている。ま

たカバー2のカフ帯1側の面は手首の手のひら側の面にほぼ沿う曲面として形成されている。

【0025】カバー3は図20から明らかなように空間を介して対向する表面板35と裏面板36とからなるもので、長孔37が設けられている表面板35の内面には長孔37の両側に長孔37に沿って係合部38が列設されている。また、カバー3の一端側には図16及び図17に示すように連結プレート30を設けており、カバー3の他端側は連結部材5を介してカバー2に連結してある。

【0026】上記長さ調節機構4は、カバー3に設けた上記係合部38と、カフ帯1の一端に連結した図21に示す可動体40とからなるもので、カバー3内に配設される可動体40は、カバー3の長孔37から外部に突出する押釦41と、押釦41の両側にあつて係合部38に係止する係止部42と、カバー3の裏面板36に弾接するばね片43とからなるもので、ばね片43による付勢で係止部42が係合部38に係合した状態が保持されるとともに、押釦41をばね片43による付勢に抗して押し込めば、係止部42が係合部38から離れて可動体40を長孔37に沿って移動させることが可能となり、該移動によってカフ帯1の長さ調節がなされるものである。

【0027】連結部材5は図15に示すものでは片50、51を金属で、片52を弾性を有する合成樹脂板で形成しているが、図16～図18に示すものでは、3つの片50、51、52を合成樹脂板で一体に形成し、ヒンジ53も薄肉部によって形成している。片52の片面のスリット57は片52に可撓性を持たせるために設けたものである。

【0028】このものにおいて、血圧測定を行うにあたっては、図15に示すようにカバー2とカバー3との連結プレート30による連結を解除するとともに連結部材5を展開した状態でカフ帯1を開き、被測定部9である手首を差し込み、連結部材5の折り畳みと長さ調節機構4によるカフ帯1の長さ調節とを行えば、図22に示すように、カフ帯1を被測定部9の周囲に添わせることができる。もちろん、長さ調節機構4によるカフ帯1の長さ調節を一度行っておけば、次からは連結部材5を折り畳むだけでカフ帯1を被測定部9の周囲に添わせることができる。

【0029】血圧測定を終了して収納する時には、図15に示す状態から連結部材5の折り畳みを行うとともに連結プレート30をカバー2に係合させる。カフ帯1はカバー2とカバー3、連結プレート30、そして連結部材5における連結プレート30を兼ねた存在となっている片52で囲まれた空間に収まる。なお、連結部材5の片50、51が係合部55の係合で重なった状態に保たれるために、図23に示す状態からカバー2、3の相互関係が崩れることはない。

【0030】一端に可動体40が取り付けられたカフ帯1の他端は、連結部材5の片51の内面に取り付けておくと、図15に示す状態でカフ帯1が大きく開くことになるために、被測定部9を通すことがより容易となる。

【0031】

【発明の効果】以上のように本発明は、少なくとも一方がカフ帯の外面に取り付けられた一対のカバーと、両カバーを相互に連結するとともにカバー間の間隔を可変としている連結手段とを備え、連結手段で連結された両カバーはその間にカフ帯収納スペースを備えたものであり、このために一対のカバー間のカフ帯収納スペースにカフ帯を収納してしまえることができるとともに、カフ帯の収納を良好に行うことができるとともに、収納中のカフ帯の汚れなどを防ぐことができる。

【0032】この時、一対のカバーが共にカフ帯に取り付けられ、連結手段はカバーの両側端同士の連結及び連結解除が自在なものであってもよい。また、一対のカバーが共にカフ帯に取り付けられ、カフ帯の両端が位置する側において一対のカバー間を連結している連結手段がカバー間を常時連結しているものであってもよい。

【0033】後者の場合、カフ帯と連結手段とによって閉ループが構成されるために、被測定部をループ内に通すことで装着を行うことができ、被測定部へのカフ帯の装着が容易となる。また、連結手段として、一対のカバー間の間隔変更部がカフ帯の被測定部への締め付け手段を兼ねたものを用いれば、血圧測定のための状態へのセットを簡単に且つ迅速に行うことができ、使い勝手がさらに良好となる。またカフ帯の全長が被測定部の周長よりも長くなるようにしておくことで、確実な血圧測定を行うことができる。

【0034】一対のカバーのうちの少なくとも一方の内面を凹湾曲面としておけば、被測定部に装着した時に被測定部外面にカバー内面が沿うためにフィット感が向上する。またカバーのカフ帯への取り付けをカフ帯の長手方向において所定の長さ以上の領域で行っていると、被測定部への装着に際して被測定部を通すための空間が大きくなるために、装着が容易となる。

【0035】さらに上記連結手段の状態変更のための操作部を備えたものとしておけば、操作性を向上させることができる。カバーの全長及び全幅を収納スペースに収まったカフ帯よりも大としておけば、収納状態のカフ帯がカバーより突出してしまうことがないために、カバーは保護カバーとしての機能を果たすものとなり、カフ帯

の汚れや傷付きを確実に防ぐことができるものとなる。

【0036】そしてカバーが血圧計本体を兼ねたものであれば、血圧計全体の取り扱いが容易となる。またカバーがカフ帯の長さ調節機能を備えたものであれば、カフ帯そのものに長さ調節機能を持たせる必要がなくなるために、カフ帯をより短くてコンパクトなものとすることができ、これに伴って収納性も良くなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態の一例の斜視図である。

【図2】(a)(b)(c)は同上の正面図である。

【図3】同上の側面図である。

【図4】他例の正面図である。

【図5】さらに他例の断面図である。

【図6】別の例の正面図である。

【図7】さらに別の例の正面図である。

【図8】他例の破断正面図である。

【図9】さらに他例の斜視図である。

【図10】別の例の正面図である。

【図11】(a)(b)は同上の他例の正面図である。

【図12】同上のさらに他例の正面図である。

【図13】同上の別の例の正面図である。

【図14】(a)(b)はカバーとカフ帯との取付部分領域の長さについての説明図である。

【図15】他例の断面図である。

【図16】同上のカバーとカフ帯と連結部材の斜視図である。

【図17】同上のカバーと連結部材の斜視図である。

【図18】(a)(b)は同上の連結部材の動きの説明図である。

【図19】同上のカバーの斜視図である。

【図20】同上のカバーの分解斜視図である。

【図21】同上のカフ帯の一端の斜視図である。

【図22】同上の血圧測定時の状態を示す断面図である。

【図23】同上の収納状態を示す断面図である。

【図24】(a)(b)は従来例の斜視図である。

【図25】(a)(b)は他の従来例の斜視図とX-X線断面図である。

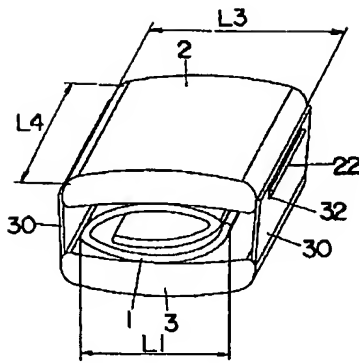
【符号の説明】

1 カフ帯

2 カバー

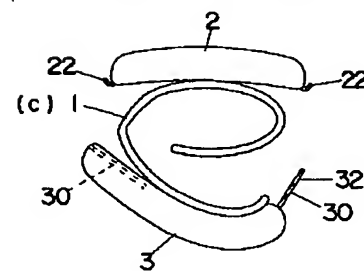
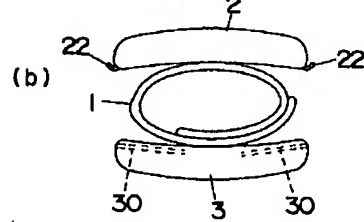
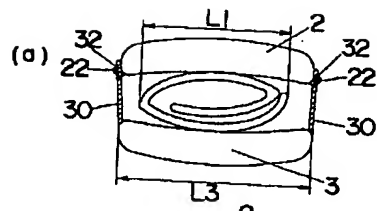
3 カバー

【図1】

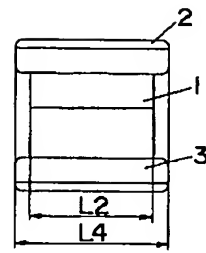


- 1 カフ帯
2 カバー
3 カバー

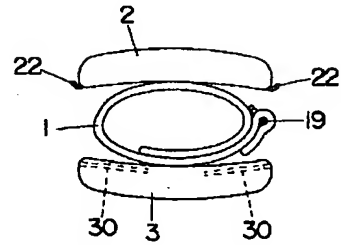
【図2】



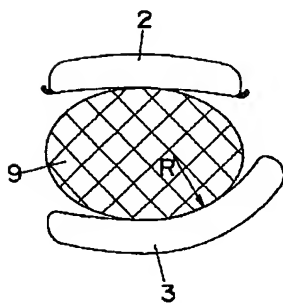
【図3】



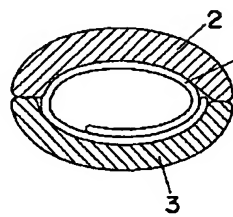
【図7】



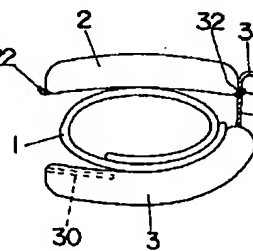
【図4】



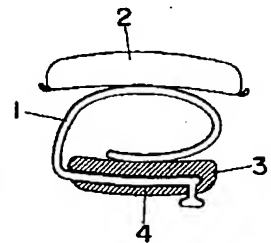
【図5】



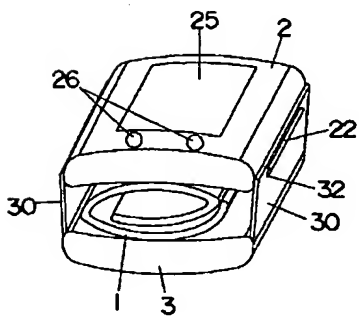
【図6】



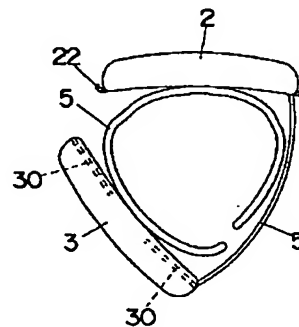
【図8】



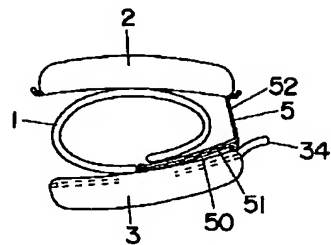
【図9】



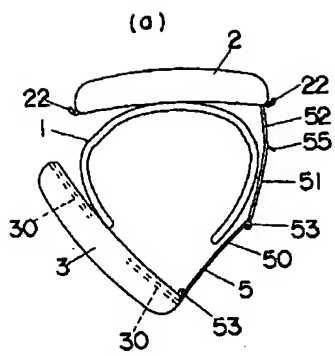
【図10】



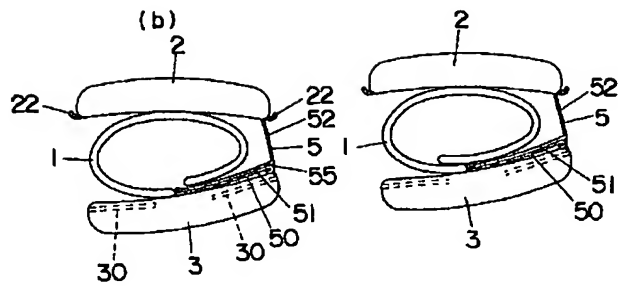
【図12】



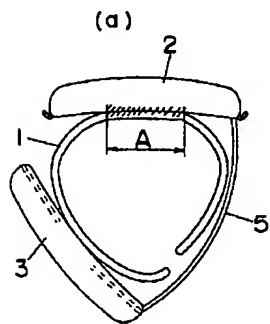
【図11】



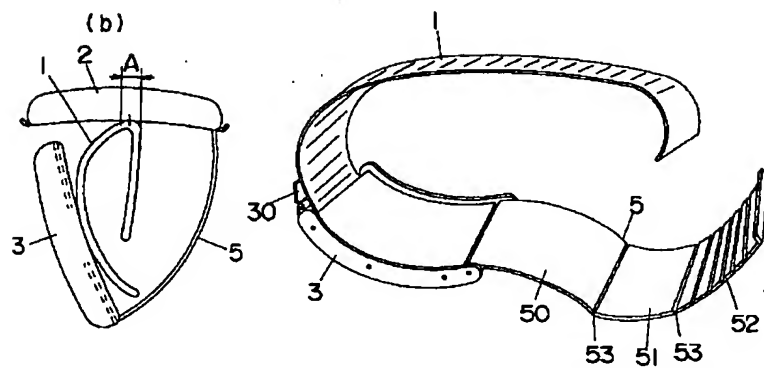
【図13】



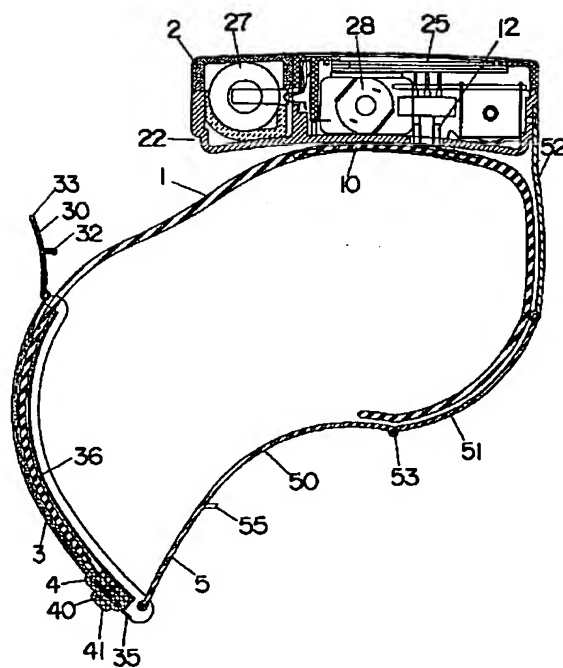
【図14】



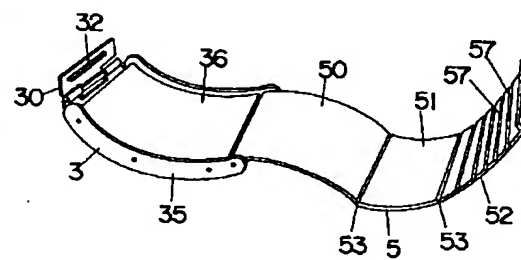
【図16】



【図15】

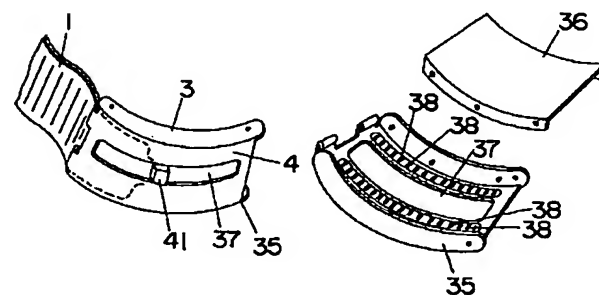


【図17】

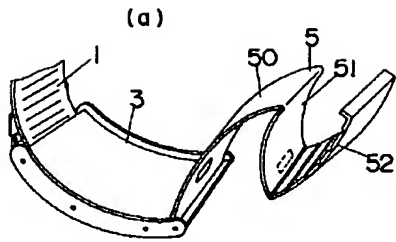


【図19】

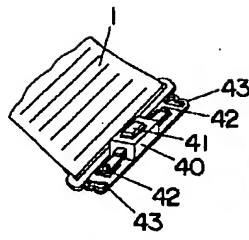
【図20】



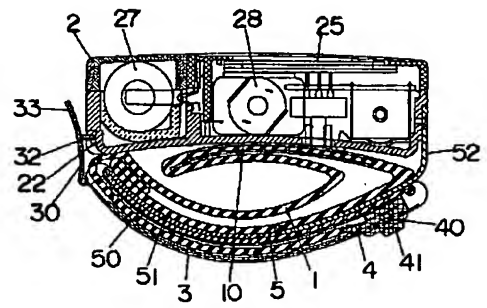
【図18】



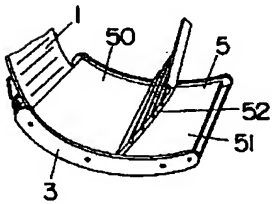
【図21】



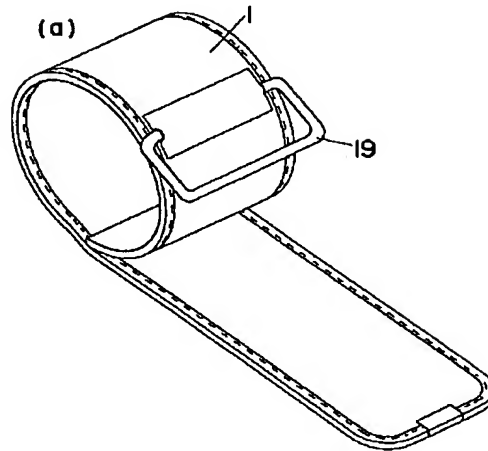
【図23】



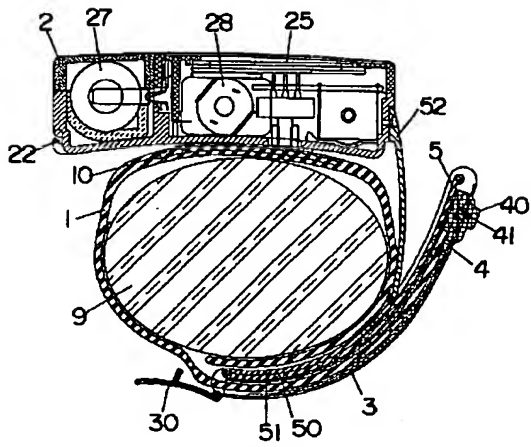
(b)



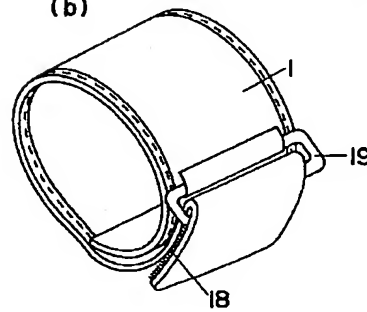
【図24】



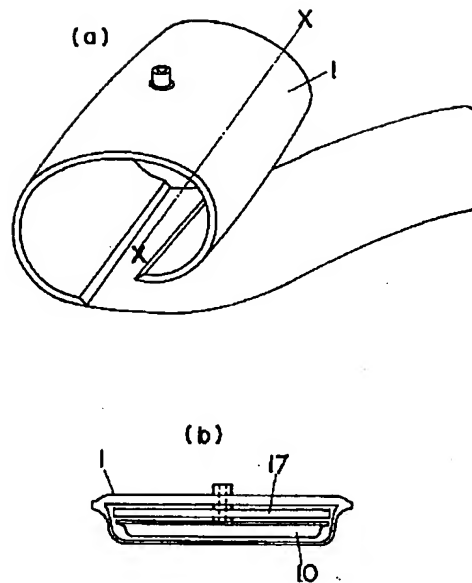
【図22】



(b)



【図25】



【手続補正書】

【提出日】平成9年6月9日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正内容】

【0003】図24はカフ帯1の一端側にリング部材19を取り付けておき、カフ帯1の他端側をリング部材19に通して折り返して該折り返し部分を面状ファスナー18等を利用して固定するものを示しており、図25はカフ帯1内に阻血用空気袋10に加えて断面C字形の弾性を備えたクリップ板17を内蔵させておき、該クリップ板17の弾性を利用して被測定部にカフ帯1をはめ付けた後、カフ帯1に取り付けてある面状ファスナーなど

を利用して固定するものを示している。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正内容】

【0004】前者は予めリング部材19にカフ帯1の他端を通してカフ帯1が閉ループを成すようにしておき、この状態で被測定部をカフ帯1内に通した後、締め付けて面状ファスナー18による固定を行うことで、被測定部への装着を片手でも行うことができる。また、後者はクリップ板17の弾性を利用することで、やはり片手の被測定部への装着を行うことができる。